笠間稲荷神社

くるみ

笠間稲荷神社◎社報

胡桃

講中を訪ねて

平成27年

盛夏

ごあいさつ

当社の八月の祭事に献燈祭があります。私たちの生活の中で欠かすことのできない火は暗きを照らし、寒さを暖め、命の根となる食物を調理し、産業にも利用される大切なものです。献燈祭はこの火のもたらす恵みに感謝するとともに祖先の御霊を慰めるお祭りで、皆様から奉納された行燈に灯りがともされ、夕暮れとともに境内は神聖な雰囲気に包まれ、毎年夜遅くまで大勢の参拝者が訪れています。

戦後七十年にあたる本年四月、天皇、皇后両陛下は慰霊と平和への祈りを込めて、太平洋戦争の激戦地だったパラオ共和国をご訪問なされました。「先の戦争でお亡くなりになった全ての人々を追悼し、遺族たちの歩んできた困難の道をしのびたいと思います。」との天皇陛下の温かなお言葉と、戦後もこの地域の人々が慰霊碑や墓地の管理、清掃などに尽力されていることに対して心から謝意を表されましたことに対し、誰もがみな深く心を打たれました。

大戦末期の、連日の空襲が続く中で民俗学者の柳田國男が書き上げたのが「祖先の話」でした。この本には日本人の生死観や霊魂観がよく表されています。亡くなった人の御霊は祀ることによって穏やかに鎮まり、人々に恵みをもたらしてくれる存在となります。祀りや慰霊を欠かす事になれば荒々しい魂となり、災いをもたらすことになりかねません。柳田には戦争によって多くの若者が散っていけば祖霊を祀る祭り手を失い、祖霊信仰がくずれていくという危機感がありました。日本人は古くから亡くなった人の霊は近くに留まり、生きている人の世界と死者の世界は行き来が可能で、祖霊はお盆や正月など決まった時期に子孫の所へ戻ってきて再会し、楽しく交流しながら、常に私たちを見守ってくれているととらえてきました。

戦後七十年目の節目の年に、献燈祭にご参列されながら御霊を慰めるとともに、平和を祈り、生活の基が家庭にあることを思い起こし、神棚に手を合わせて神道の本来の姿である祖先との精神的な結びつきを深めていきたいものです。

笠間稲荷神社　宮司　塙東男

笠間稲荷神社復興奉賛会

未曾有の大震災より四年余りが経過し、皆様のご協力により復興工事も着実に進み、ようやく元の状態に戻りつつはありますが、鳥居建立が残るなどまだ完全復興には至っておりません。

つきましては、一日も早く信仰の場を取り戻すため、今後も皆様方のご協力ご支援を仰ぎたく大変恐縮には存じますが、引き続き格別のご奉賛を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

◎ご奉賛について

一、ご奉賛は、ご参拝のおりか現金書留、郵便振替、銀行振込のいずれでも結構です。

但しお振込の場合、ご本人様の住所等の確認が出来ませんので、神社までご連絡下さいます様よろしくお願い申し上げます。

一、ご奉賛戴きました際には、早速大神様にご奉告申し上げ、芳名簿に記し、ご神前に献納し永く顕彰致します。

◎募集目標金額

三七一，三四八，〇〇〇円

◎振込先のご案内

郵便振替の場合

口座記号番号

〇〇三五〇-二-六五〇八

宗教法人笠間稲荷神社

指定銀行振込の場合

常陽銀行笠間支店

(普)一一八二七一七

宗教法人笠間稲荷神社

代表役員　塙　東男

お問い合わせ先

笠間稲荷神社　復興奉賛会

TEL　〇二九六ー七三ー〇〇〇一

祭事予定　八月

一日　本社御田植祭
一日　事比羅祭
一日　末社祭
二日　献燈祭
十三日　旧大祓式

事比羅祭・末社祭

八月一日は笠間稲荷神社の境内に枝社（えだやしろ）としてお祀りされている、事比羅神社、月読神社、白山比咩神社、菅原神社、粟島神社、山倉神社の例祭が斎行されます。

ご参列は自由ですので、それぞれの御神徳を頂かれてはいかがでしょうか。

事比羅神社・末社の御祭神

事比羅神社…大物主神
（海上安全・福徳成就）
月読神社…月読尊
（海上安全・歴を司る神）
白山比咩神社…菊理媛神・伊邪那伎尊・伊邪那美尊
（縁結び・夫婦和合）
菅原神社…菅原道真公
（学業成就）
粟島神社…少彦名神
（医薬・裁縫の神）
山倉神社…高皇産霊神・大国主神・建速須佐之男神
（病気平癒・子孫繁栄・災難除け、開運）

事比羅祭

末社祭

祭事予定　九月

十日　抜穂祭

二十三日　秋季皇霊祭

二十三日　小笠原流弓馬術奉納式

二十七日　中秋祭

祭事予定　十月

十七日　神嘗奉祝祭

十七日　菊まつり開催奉告祭

十七日　菊まつり開場式

二十三日　尚歯祭

二十八日　講社大祭

笠間の菊まつり

菊まつり開場式

尚歯祭

尚歯祭の「尚」は尊ぶ、「歯」は年齢の意味で、すなわち尚歯（ことほ）とは高齢者を敬い尊び、長寿を言祝ぎ慰安するという意味です。

尚歯祭の起こりは大正天皇の御即位大典にあたり、全国の高齢者が恩賜の光栄に浴したことにより、御大典の盛挙を記念し、当神社では大正五年に始まり、尊長的な精神を養う事を目的として始められました。市内在住の七十五歳以上の方々を対象にして招待して行われるこのお祭りは、今年で百回を数えます。

尚歯祭

祭事予定　十一月

三日　明治祭
三日　神事流鏑馬
七日　示現流奉納奉告祭
八日　大和古流奉納奉告祭
十五日　霜月祭
十五日　舞楽祭
二十三日　新嘗祭・献穀献繭祭
二十三日　菊まつり千秋楽

祭事予定　十二月

二十二日　御火焚串炎上祭
二十三日　天長祭
二十八日　鹿島祓
三十一日　大祓式

舞楽祭

神事流鏑馬

鹿島祓

大祓式

笠間稲荷神社

献燈祭

献燈祭とは

行燈に火を灯し祖先の御霊を慰め
神恩に感謝の誠を捧げ各家の安泰と
御祈願の成就を願うお祭りです。

献燈料
紙行燈　一千円
中行燈　五千円
大行燈　一万円

随時受付中です
お問い合わせは社務所まで
☎〇二九六（七三）〇〇〇一

日時
八月二日（日）　午後五時
笠間稲荷神社　境内

正月祈祷案内

平成二十八年の新春初祈祷を受付ております。昇殿参拝をし、新年の御札を受け、神棚にお祀り致しましょう。

◆祈祷時間

一月一日	〇時～五時、七時～十七時
二・三日	八時～十七時
四～十五日	八時～十六時
十六日以降	七時四十五分～十六時

◆祈　願

- 五穀豊穣
- 家内安全
- 商売繁栄
- 交通安全
- 厄除
- 方位除
- 病気平癒
- 開運招福
- 身体健全
- 学業成就
- 合格祈願

等

◆新春祈祷申込

新春初祈祷の当日受付は大変混み合いますので、ＦＡＸ、インターネットの事前予約をご利用ください。正月前にお早めにお申し込み下さい。

ＦＡＸ▼０２９６－７３－０００２

◎ホームページ

http://www.kasama.or.jp/

笠間稲荷神社　検索

お知らせ

正月期間中は、当社参集殿前駐車場は使用出来ません。駐車場の詳細はホームページをご覧下さい。

また、交通規制をしておりますので、ご理解、ご協力をお願い致します。

第108回
笠間の菊まつり

日本三大稲荷 笠間稲荷神社

大菊花展
菊人形展

平成27年
10月17日(土)～11月23日(月)
8時半～16時半（入場は16時まで）

艶やかな菊が
笠間の秋を彩る
日本最古の菊の祭典

菊人形展 花燃ゆ

笠間稲荷神社日誌

平成二十七年

赤字…祭典　緑字…行事
青字…結婚式
黒字…講中参拝・正式参拝

◆一月

一日　歳旦祭
茨城日産自動車㈱
八千代講
髙梨講
藤井講・赤坂講

三日　元始祭

五日　鉞始祭
根崎解体工事㈱
野尻笠間講

六日　明誠講・海上芋苗組合・笹本笠間稲荷講

九日　茨城綜合警備保障㈱・
ＪＲ水戸鉄道サービス㈱・
ヤマト運輸㈱茨城主管支店・

十日　初事比羅祭
那須塩原市商工会高林支部

十一日　下野小山須賀笠間稲荷講・
㈱横山喜惣治商店・穂波会・東毛敬神講

十二日　㈲野上運輸

十三日　㈱国分建設

十四日　尖閣諸島安全祈願祭
黒田原りんどう会

十五日　古札炎上祭

十六日　㈲秋田土木

十七日　キャラエーピー㈱

十八日　嶋田商会・柏崎講・東京平和講・
石井工業信友会

十九日　房地組合

二十一日　山髙野講

二十二日　御本殿畳奉納奉告祭

二十四日　笠間稲荷神社敬神婦人会　会長塙菊枝様
麻生笠間講・正徳講・㈱ナテック

二十五日　初天神祭
熊野三社大神氏子会　総代本木信夫様
全建栃建労那須支部・野田市信栄講・
下三ヶ尾笠間講・弥栄講

二十六日　東宝上町講・幸手講

三十日　神宮大麻暦頒布終了奉告祭

三十一日　笠間稲荷門前講

◆二月

一日　堀の内組・
野中組稲荷講

三日　節分追儺式
相川七瀬様
東関大五郎様
振分精彦様

撒豆行事司奉仕
都賀町講・石の葉講・笠間友部街商組合

四日　船形観光友の会・大山笠間講・
サカイ会祈願会

八日　針供養祭
栃木笠間会・鶴ヶ丸講・東京八方講・
太木講

十一日　初午大祭・紀元祭
下古山講・取手市機械工業会・
並木町笠間講・網戸中宿稲荷講
川上実行組合・旭市奉賛会

十三日　船形笠間講

十四日　祈年祭・初穂講大祭
栄町講

十五日　野田市蕃昌笠間稲荷講・中峰笠間稲荷講

十七日　初甲子祭

十八日　旧大祓式
東京弥栄講・笠間一心講

十九日　旧歳旦祭

二十二日　大相模笠間講・野田七親講

二十三日　豊田稲荷講・元町笠間稲荷講・
中野台笠間講

二十四日　貴船笠間講

二十五日　学校法人皇學館　理事長佐古一洌様

二十七日　真山神社　宮司武内信彦様

◆三月

一日　笠間稲荷高柳講・下落合笠間稲荷講・川口商栄講
七日　森ノ根稲荷講
十二日　西会津笠間稲荷神社講
十三日　心和講
十四日　結婚式　安達家・中村家
十五日　秋山講
十八日　焼津神社
代議員村松寛様
柳沢胡桃下稲荷講
二十一日　春季皇霊祭
二十九日　絵馬祭
絵馬コンクール表彰式
幸栄親睦会
三十一日　旧初午大祭
新入職員入社式
浦和辻神仰会・阿字ヶ浦西久保稲荷講・阿字ヶ浦講・向町笠間講

◆四月

二日　四條司家食文化協会　理事長四條隆彦様
三日　神武天皇祭遥拝
九日　例大祭
十二日　東京笠間講・大櫻笠間講
十八日　東京丸佐講
十九日　笠間稲荷下谷参拝講
二十一日　秩父親和講
二十六日　東京紋三郎講
二十七日　タイ王国　ディスナダ・ディスクル殿下
二十九日　昭和祭

◆五月

七日　日枝神社
宮司宮西修治様
九日　東京月島笠間稲荷講
十日　御田植祭
東京笠間報恩講
東毛敬神講
十四日　コロンバス芸術デザイン大学
ハヤカワヒロシ様
ナネット・ハヤカワ様
ロデリック・レーヴェス様
十六日　東京胡桃講
十七日　植樹祭奉告祭
小鹿野笠間講
二十六日　本宮祭
二十八日　本宮祭
二十九日　本宮祭
三十日　文化庁文化財部主任文化財調査官
豊城浩行様
三十一日　結婚式　ブレ家・磯部家

◆六月

六日　結婚式　竹澤家・大槻家
七日　長江建材工業㈱・初雁興業㈱・東京あづま講
二十一日　西秩父笠間講
二十八日　車の茅の輪くぐり
三十日　大祓式

藤の香りに誘われて

境内二株の藤が今年も見事に咲きました。樹齢は四〇〇年を越え、楼門側の大藤と拝殿側の県の天然記念物に指定されている八重の藤。十分な雨が降ったことや、境内整備の効果もあり、ここ数年で一番の咲き具合でした。見頃となった大型連休中は天候にも恵まれ、多くの参拝の方々を楽しませてくれました。

当社には古くから「講中」という団体で参拝される崇敬者の組織があります。
地域、血縁、仕事仲間など、稲荷大神さまとご神縁を結ばれた様々な講中が
全国各地で活動しています。今回、ご紹介するのは・・・

講中を訪ねて　越谷穀信講

越谷穀信講は、昭和二十年八月に講参拝を開始した創立七十年となる歴史ある講中です。埼玉県越谷市にお住まいの第十代講元・会田清さんを中心に各地区の講役員の皆さんが講員を取り纏め、毎年昇殿参拝をしています。参拝は、農作物の収穫が終わり一段落ついた頃、十一月初めと定めています。

今日まで、初代講元・櫻井常吉さん、二代・浜野利勝さん、三代・松沢正之助さん、四代・堀井潔さん、五代・島根喜一郎さん、六代・山田忠治さん、七代・大野重市さん、八代・河上芳雄さん、九代・白鳥芳治さんと多くの先人たちが地域の人々を束ね導き、稲荷大神様の御神徳を仰がれてきました。講結成以前は、代参として数名が笠間まで徒歩で参拝に行っていたという話もあり、農事を主な仕事としている講員が大半であった為、稲荷大神様を古くから篤く信仰されてきました。「越谷穀信講」という講名にも、農事に携わる講員皆様の願いが込められています。

講参拝は長らく一泊の旅行形式で講員は参加をとても楽しみにしていたとのことですが、交通の便が良くなったことなどから現在は日帰りとなり、参拝後は筑波山や袋田の滝に足を伸ばしたり、梨狩りをしたりと参加者間の親睦を深める貴重な時間となっています。

「昔は農作業には隣近所の人々の協力が不可欠で、地域の結びつきは強固だったが、機械化が進むうちに個々で解決するようになった。若い世代ほど神様への畏れも少なく、地域住民の交流と共に信仰心も稀薄になっているように感じるが、稲荷大神様のご縁がつないでくださっている」と会田講元が社会生活の変化による講運営の難しさをお話くださいました。

また、世話人の皆さんから「年齢を重ねた今も健康に暮らしている日常に大神様の御加護を感じる」「毎日元気に過ごしているのも心の拠り所としていた大神様のおかげだと感じる。秋になると笠間へお詣りに行かなくては、と自然と思う」等、日々の安寧への感謝の思いや講中参拝への意欲をお聞かせいただきました。

講員ご家族の中でも世代交代が進み、当たり前に続けてきた信仰が途絶えてしまう家もあるとのことですが「五穀豊穣祈願からはじまった講中だが、家内安全や交通安全など大神様の広い御神徳が若い世代にも伝わり、新しく講中参拝に参加する家庭もある」と時代に則した信仰の現状を把握し、会田講元、そして役員各位には講員維持・増加にお努めいただいております。

越谷穀信講の今後ますますのご発展と講員皆様方のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

講元
会田　清
昭和11年生まれ（79歳）
職業：農業
趣味：グランドゴルフ

「平和な世の中ではありますが、人間の力では手の届かないものがあることを知っていますので、自然と神棚に手を合わせ毎日の平穏無事を祈っています。人生を振り返ると正しく信仰していたおかげで、正しい道に進むことができ、不幸も小さくしてくれていると感じ、大神様に感謝しています。地縁のつながりを大切にし、今後も講員への講参拝参加を呼びかけていきたいと思っています。」

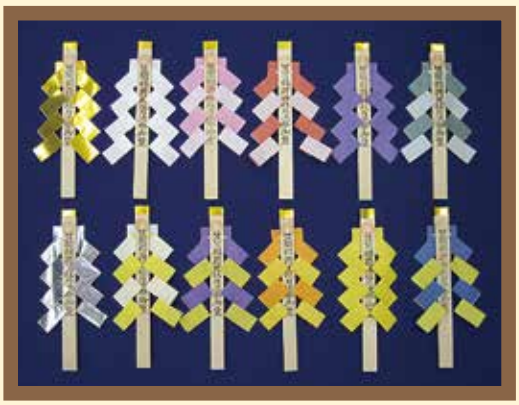
▲お忙しい中、訪問取材をご快諾・ご協力いただきました越谷穀信講役員の皆さん。
前列左より副講元・雨野寛さん、講元・会田清さん、総務会計・島村孝さん。後列左より世話人・中村富雄さん、世話人・中村昌さん。
取材当日お集まりいただきました役員の皆様の他にも各地区に講世話人がおり、参拝前に計画を立て、地区の講員を取り纏め、また参拝後には会計報告等を行い、年間を通じて講運営にご尽力いただいております。

「講中を訪ねて」でご紹介させていただく講中を募集しております。訪問、取材へのご協力を宜しくお願い致します。

月詣り

当社には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらっしゃいます。

月詣りとは、月毎に大神様の御加護を受け、前月よりの平穏無事を感謝し、新たな御神徳を頂くことであります。月詣りの方には神苑に咲く花を表した御幣を授与しております。どの月からでも始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。



祈祷案内
方位除け

当社では、方位除けの御祈祷を行っております。方位除けには二つの種類があります。一つは「年回り」による方位除けで、本命星（生まれた年の星）がその年にどの方向に位置しているかで吉凶を占い、災いを防ぐものです。もう一つは、転居・旅行などで、文字通り行く先の「方角・方位」による災いを防ぐためのです。一年を何事もなく無事にお過ごし頂けますよう、当社で方位除けの御祈祷をお受けになってはいかがでしょうか。

（初穂料　五千円より）

当社ホームページからもご祈祷のご予約が頂けます。

◎ホームページ

http://www.kasama.or.jp/

笠間稲荷神社　検索

奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致しております。ご奉納頂ける方は笠間稲荷神社社務所までご相談下さい。ご奉納頂いた方の御名は末永く顕彰させて頂きます。また、これまでにご奉納頂きましたご崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。

おみくじ紹介

笠間稲荷神社にはおみくじが全部で十七種類あり、その中から何種類か紹介させていただきます。

きつねみくじ

前回の胡桃でも紹介した当社で人気のおきつねさんのおみくじです。
裏におみくじが入っております。
おきつねさんは手のひらサイズで置物としてお飾り下さい。

三角みくじ

三角の袋に八種の運気が向上する天然石のうちの一つが付いているおみくじです。
男女ともに人気があります。

手振りみくじ

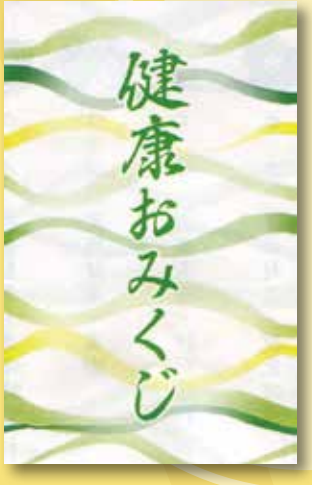
当社の授与所でひくことができるおみくじです。
振って出た数字のおみくじをお渡し致します。

運気上昇みくじ

運気が上がる日のぼり、富士鷹茄子といった縁起物が入っているおみくじです。

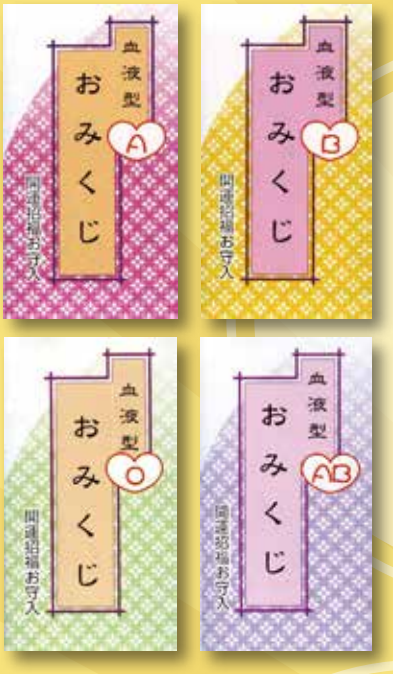
爛漫桜咲くみくじ

赤やピンクの可愛らしいハート型の鈴が付いた花びらのおみくじです。花びらを一枚一枚開くと、桜の花が咲きます。女性に人気があります。



健康おみくじ

健康一口メモ入りのおみくじです。
亀や鶴といった健康・長寿、病気平癒の意味を持つ陶器製の御守りが入っております。



血液型みくじ

血液型で引くことができ、だるま、招き猫といった開運招福の肌守りが一緒にあるおみくじです。血液型の相性も書いてあります。

華の筒みくじ

開運、幸福、愛情、清らかという意味を持つ四種の「水引の花」のうち一輪とともに筒に入っているおみくじです。
華の筒はおみくじ入れに使えます。

彩り恋みくじ

愛を象徴するハート型の天然石が入っているおみくじです。
ポーチや携帯ストラップに付けてお持ち下さい。

神社のいろは

Q 笠間稲荷美術館について教えて下さい。

A 笠間稲荷美術館は、笠間稲荷神社の崇敬者教化活動の一環として社宝及び神社・郷土に関係する歴史資料、美術工芸品等の文化財の収集保管、調査研究、展示公開を行い、広く一般の理解を深め、郷土の学術研究、社会教育、産業振興に寄与することを目的として、昭和五十六年三月十五日に開館いたしました。建物は、正倉院を模した高床式の平屋建となっております。

Q どういったものが展示されていますか？

A 常設展は中世陶器六古窯展と申しまして、笠間焼きが影響を受けた信楽をはじめ常滑、瀬戸、越前、丹波、備前の中世六古窯の古陶器が展示されています。

また、その他に特別展を開催することもございます。

【入館案内】

開館時間 午前九時～午後四時三十分
（最終入館　午後四時）

休館日 年中無休
（特別展開催期間の前後三日間は、展示替えのため休館となります）

入館料 一　般　三〇〇円
大高生　二〇〇円
中小生　一〇〇円
（団体二十名以上で五十円引）
※特別展示の入館料は異なります

その他、ご質問等ございましたら、
神社社務所までお問い合わせ下さい。
笠間稲荷神社社務所
☎０２９６（７３）０００１

笠間稲荷神社
社報「胡桃」No.35　平成27年6月発行　発行所／笠間稲荷神社社報編集委員会　茨城県笠間市笠間1番地
電話0296(73)0001㈹ FAX0296(73)0002　テレホンサービス0296(73)0003ホームページhttp://www.kasama.or.jp/
Eメールinfo@kasama.or.jp　編集発行人／塙 東男
本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。